

勉強好きの実践嫌い

小島 たかし

今、市内でしきりに新しい公共交通の議論が盛んである。市内にモノレールを敷いたらどうか、いやLRT（ローカル・レイルウェイ・トランジット＝次世代型の路面電車）ならいんじゃないか、とかいう議論である。この公共交通の論議は歴史が長い。

早くは、新潟駅と新潟空港間のアクセスの議論があった。1980年代、当時400万人代であった日本人の海外旅行客を1千万人に増やそうという国策があって、このために地方空港の国際化を進めたことがあった。新潟空港は海外路線がその時点でのハバロフスク、ソウルの2都市だったものを、ウラジオストック、ハルビン、グアム線などを国内他都市と争って獲得してきた。その空港の活性化の延長として滑走路の延伸があって、あたらしいターミナルが完成し、いよいよ余勢をかって新潟空港に利用客拡大のために、新潟駅から空港までの軌道系のアクセスを計画したのである。計画の第一は上越新幹線の延伸であった。東京駅から直接新潟空港駅まで新幹線が走るのである。このことは、埼玉や群馬の利用客を増やすと信じられていた。しかしである。ご存知のようにこの計画は未だに実現していない。チャンスはいくらでもあった。しかし時のだれもが決断を下せず議論のみが続いた。

時代を経て、最近では市民アクセスとしての路面電車、あるいはモノレールを導入して市民の足として活用してはという議論が盛んとなった。我々もその議論の真っ只中に身をおいている。お隣の富山ではいち早くLRTを導入し全国から脚光を浴びた。収支も黒字化しているという。

新潟人は議論が好きであると思う。新幹線延伸の議論から始まって、市民アクセスとしての公共交通がどうあるべきか、私の知る限り20年間議論してきた。しかし、何も実現していない。このまま議論が続くとまたまた直ぐに10年、20年が過ぎかねない。

この状況を称して“勉強好きの実践嫌い”と言う人がいた。未来型の公共交通については、勉強好きの実践嫌い、はもう卒業して何としても実現させたい。